

検索技術者検定 1 級 受験の手引き

この手引きは、1 級を受験される皆さんが少しでも効率的な受験勉強を進められるように、試験の領域および受験のための学習方法について説明したものです。この手引きをご利用いただき、受験勉強の参考にしていただければ幸いです。

皆さんのご健闘を祈念しております。

1. 試験の対象者

1 級試験の対象者は、組織において情報検索業務に従事しており、実務経験が豊富な人、情報活動に関する高い知識とスキルを有する上級情報担当者等を想定しており、かつ、検索技術者検定 2 級（情報検索応用能力試験 2 級、データベース検索技術者認定試験 2 級含む）合格者の方です。

2. 試験で問う内容

2 級試験範囲の専門知識、スキルについては取得できていることを前提として、以下の能力を問います。

- ・ インフォプロとしての経験、考え方
- ・ マネジメント・スキル
- ・ ユーザー教育
- ・ 指導育成力
- ・ 部門間調整力
- ・ 問題解決力
- ・ プレゼンテーション能力

3. 一次試験について

(1) 論文試験：共通テーマ

・インフォプロとしての経験、考え方

インフォプロ、社内での情報調査のあり方、のように関連するテーマで小論文を書いてみるとよいでしょう。自身の考え方を日頃から整理しておくことが大切です。

・ユーザー教育・指導育成力、部門間調整力・問題解決力・プレゼンテーション能力

エンドユーザー教育を企画・実施する、部門の新人への教育カリキュラムを考える等、その機会の有無にかかわらず想定して考えてみるとよいでしょう。

(2) 論文執筆者のプロフィールに関するレポート

所属組織での主な業務やあなたの役割、業務を遂行する中で生じた悩みや課題に対する解決方法、インフォプロとしての今後のキャリア・将来像などを、論文形式で説明できるようにしておくとうまいでしょう。

このレポート内容は、(1) の論文の採点の参考情報とすることがあります。

4. 二次試験（面接）について

決められた課題に関するプレゼンテーション能力を問うほか、情報検索関連業務についての考え方や企画力、情報検索技術と問題解決能力を組み合わせた情報サービスのスキルなどを問う出題が、口頭試験によって行われます。

また、情報関連の対外活動（各種団体・活動への参加、口頭発表、文献発表等）も評価の対象となります。

5. その他

1 級は、日頃の業務経験により培われたマインドが問われます。そのため、指定された参考書はありませんが、2 級用参考書の内容は理解しておくようにしましょう。また「情報の科学と技術」、「情報管理」等の関連雑誌は日頃から目を通し、掲載されている論文については簡単に内容を説明できるようにしましょう。

参考資料：

2 級用参考書 「プロの検索テクニック第 2 版：検索技術者検定 2 級 公式推奨参考書」

発行：樹村房（2020 年 8 月 25 日刊行） ISBN：978-4-88367-341-4

「情報の科学と技術」、「情報管理（2018 年 3 月以降休刊）」

なお、本手引きについての質問にはお答えできませんのでご了承ください。